

## 1 機関銃弾薬莢に関する該当機

- North American 「B-25」  
Mitchells (ミッチェル) J型機
- 第5爆撃機集団 第345爆撃機群  
団 第498戦隊所属機
- 機体番号 4-31300  
機体通称は「エアパッチ」
- 墜落日 1945(昭和20)年  
8月7日 松橋空襲時に墜落
- 墜落地点 氷川左岸内の河床・護岸  
通称「五番割水田」近くで、現新  
幹線橋梁の上流約200m箇所



写真1 沖縄伊江島基地のB25機

## 2 採集に関わる概要・想定

墜落後に芝口警防団を中心として、機体を解体し、同町配備の陸軍第216師団(通称は京都で編制された比叡部隊)の一部隊が、駐屯する旧鏡国民学校「通称は宮原部隊」に回収した機体を持ち込んだと想定。その後、敗戦時に部隊撤収にとまない学校隣接する「鏡ヶ池」内に投棄したものと想定。

藤山俊一さん証言では「飛行機主翼先端部が2基、大型の尾翼も投棄されていた。この部品については、夜間に誰かが沈める気配を池のすぐ前の自宅から感じたが、何時かは思い出せない」との事である。

また、藤山証言では「池に渡る“木橋”の下に、約80cm長のベルトに繋がったままの機銃弾を、戦後引き揚げて“弾体・弾心”を外して、薬莢内の炸薬に火を付けて遊んだ」とある。また島田幹雄さん証言では、「池から採集した機銃弾のほか、風防“においガラス”をこすって遊んだ」との事である。

その時の薬莢を、藤山さんが6個保管している。内2個には鉄製リング金具・連環が残されている



写真2 鏡ヶ池から採集の機銃弾薬莢6点

## 3 観察状況

### (1) 計測値

全長9.9cm、頸部内径12.7<sup>mm</sup>、頭部・底部径20.17<sup>mm</sup>

当初は頭部を赤や青色に着色した弾丸・弾心が着いていたが全て外した。薬莢頸部には、除去時に端部を開いた弱い開きがいずれにも見られる。

※所有者了解のもとで、付着の泥等を落とし、刻印確認の為、底部腐食部を弱酸でクリーニングした。薬莢内部には炸薬は無かった。

### (2) 各薬莢状況

#### ①薬莢 「L S 4」刻印 赤色痕跡 連環金具付き

⇒1944年製 セントルイス兵器工場 (St. Louis Ordnance Plant) 製造  
ミズーリ州セントルイス

#### ②薬莢 「DM 43」刻印 青色痕跡 連環金具付き

⇒1943年製 デモイン兵器工場 (Des Moines Ordnance Plant) 製造  
アイオワ州キニー

#### ③薬莢 「4 3 T」刻印 赤色痕跡か

⇒1943年製 ツインシティーズ兵器工場 (Twin Cities Ordnance Plant) 製造  
ミネソタ州ミネアポリス

④薬莖 「4」刻印  
⇒1944年製 生産工場は不明

⑤薬莖 「T」刻印  
⇒ ツインシティーズ兵器工場 (Twin Cities Ordnance Plant) 製造

⑥薬莖 ※写真なし 「DM 43」刻印 ⇒②薬莖と同種

#### 4 まとめ

- これらの事から、本薬莖は**米軍使用「12.7<sup>mm</sup>機銃弾」**であるが、弾体・弾心が遺存していないことから、機銃弾種別は不明である。
- 採集時状況・証言から**航空機搭載・1945年8月7日墜落のB25機の機銃資料**と判断される。
- なお、B25J型機には、12.7<sup>mm</sup>機銃を計14丁を装備する。



写真3 鏡ヶ池から採集された機銃弾薬莖 右から薬莖①・②



写真4 同 右から薬莖③・④・⑤ ※薬莖⑥は写真なし